

コロナ禍の授業で思うこと

出席： 元大K(元大学教授)	大学K(大学准教授)
元高S(元高校教諭)	現高S(現役高校教諭)
現高F(現役高校教諭)	元中D(元中学校教諭)
現中H(現役中学教諭)	編集K(フリーランス編集者)

Content

- 1 コロナ禍で英語の授業はどう変わったか？
- 2 新学習指導要領と「指導なき評価」
- 3 「思考・判断・表現」の評価をめぐって
- 4 木を見て森を見ない評価

- 1 コロナ禍で英語の授業はどう変わったか？

司会（編集K） 本日は「コロナ禍の授業で思うこと」というテーマで話し合いを進めていきたいと思えます。2020年の3月にコロナ禍による一斉休校があり、その後2023年の1月現在まで3年半にわたってコロナ禍が続いているわけですが、それによって英語の授業はどう変わったか。各学校段階で、コロナ禍になってどのようなことに困ったか、今はどのような状態で授業を行っているかといったことを、まず話題にしたいと思えます。ちなみにこの座談会には小学校の先生がおりませんので、私の方で何人かの小学校の先生にうかがったことを報告させていただきます。コロナ禍になってまず困ったことは、話せない、歌えない、発表活動が子供個人対教師でしかできない、リスニングだけの授業になった、といったことでした。中学校や高校でもいろいろ困ったことがあったらと思うのですがいかがでしょうか。

現中H 私の勤務する中学校では、コロナ禍になってリモートの授業になったわけですが、個々の生徒と教師がやり取りをすると授業がその生徒個人と教師だけの世界ようになってしまうので、カメラを黒板に向けて授業の様子を映して、テレビのように放映するという形になりました。黒板の文字が映るので、生徒は授業の終わりにそれを写真に撮っていたようです。また、別の中学校では教師がビデオクリップを作り、生徒がオンデマンドでそれを

視聴するというところもありました。ビデオクリップを500本作ったということで、大変な作業だったと思います。

現高S 私が勤務する高校では、2020年度からClassiやロイロノートなどを導入し、ICTを活用した授業を進める予定でした。Zoomの活用も視野に入れていましたが、年度当初は、生徒が登校できず、紙の資料を自宅に郵送し、学習を進められるようにしました。そのうちにZoomで、時間割通りの授業をリモートで行うようになりました。教師が不慣れで、まずZoomの操作に慣れるのが大変でした。また、ロイロノートの活用もできるようになり、授業担当者が授業毎に、それぞれ課題を出し、生徒は毎日膨大な課題を受け取り、課題に追われる日々を過ごしていました。教師のほうも授業を受けたことを確認するために課題を出しているような感じでもありました。果たしてこれで学力がつくのかという不安がありました。Zoomでは、ブレイクアウトルームの機能を使い、グループ活動もしましたが、グループ内で英語でやり取りをするというよりも、生徒が誰かとつながれる場を提供するという意図がありました。Zoomでの授業ではパワーポイントを使ってQ&A形式で行いましたが、回線が不安定で、画像が途絶えたり、音声不明瞭だったり、双方向の授業は難しいと思いました。また、教師も技術に追いついていないという感じを強く持ちました。

現高F 2020年の1学期は1方向の授業しかできませんでした。グーグルクラスルームを使っていたのですが、私は高校のライティングの授業を受け持っていたので、パワーポイントで教材を作りジャーナルを書くなどの課題を設けてそれを配信するという1方向の授業でした。毎週テストも行っていたので、教材作りに追われて1日中働いていました。普段の3倍くらい働いていたという印象があります。教材を作る、配信する、生徒から送られてきた課題を確認する、テストをするという作業をしながら生徒に会えない。まるで闇の中にいるようなつらい思いがありました。2学期になって、授業の半分は対面、半分はオンラインになり、2021年度からは全て対面の授業になりました。2020年はオンラインの授業について1から学んだという印象です。おそらく世界中の教師が学ぶことが多かった年でしょう。でも、学習効果は極めて少なかったと思います。

司会（編集K） オンラインの授業は学習効果がなかったですか。

現高F 1学期の授業は学習効果がなかったと思います。2学期になるとそれが変わってきた。やはり双方向の授業でなければならないと思います。楽しくオンラインの授業ができる工夫や双方向のやり取りができる工夫などもある学びましたが、準備が大変です。やはり対面の授業がよいし楽です。

生徒と教師が1対1の関係でなく、全体で学び合い何かに向かっていくという対面の授業が、やはり英語の授業にはふさわしいと思います。

司会（編集K） 現高S先生と現高F先生のお話で共通することとして、リモートの授業で本当に学力がついているのかわからないということと、教材を準備するのが本当に大変だということが浮かび上がってきたと思いますが、大学ではいかがだったでしょうか。

大学K 大学は比較的ICTの機材がそろっていましたが、学生が機材を持ってなかった時期がしばらくありました。コロナ禍で世界的にICT需要が高まって手に入りにくくなってきたのと、大学の場合は小中と違って支給されるのでなく、学生が自費で購入しなければならないということもあって混乱した状態が続きました。そんな状況の中で、大きく分けて2つのスタイルで授業が行われました。1つはオンデマンド型というか課題型といったもので、全員の学生に連絡できるシステムがあるので、それを使って今週はこれをやって来なさいと課題を連絡する、その際にパワーポイントなどで教材を作ってアップロードし、学生はそれをダウンロードして取り組むといった課題配信型ですね。その中で配信する教材として動画を作製する教員もいました。ちなみに私もそうでした。先ほども話題になったテレビ番組を配信するというものに近い形ですね。もう1つはZoomを使って、双方向の形で通常の授業のように行うという形で、それを望む教員がかなりいました。そのために教員も学生もZoomの使い方を学んで、2020年の4月にはZoomで授業ができるようになっていました。Zoomの授業でよいのは事前の準備が配信型ほどかからないこと。通常の授業と同じようにすればいいわけですから。でも、それでどんなことが起こったかということと健康被害。学生はずっとパソコンの画面を見ている、90分1コマの授業を5つ6つも見続けるのですから、当然健康被害が避けられません。そうした事態が予想されたので私はオンデマンド型で通しました。Zoomはほとんどやりませんでした。ただ配信型でも課題が多いと学生も教員も疲弊してしまうので、オアシスのような場を作りたいと考えて、講義中心の内容で学生がリラックスして楽しめるようにしました。この授業は学生が内容をよく覚えていてくれて、「大学らしい授業だった」と言ってくれるのですが、現高F先生がおっしゃったように、それで学生に英語の力がついたかという疑問があります。講義形式の授業は動画を作るのですが、20分から30分の内容です。普段90分の授業で話す内容が動画にすると30分程度に収まってしまふ。だから普段の授業ではこちらが話す時間のほかに学生とのやり取りの時間がかかなりあるのだということが逆にわかりました。動画を制作するのは、スライドを用意し、音声を録音し、それを編集するという手間のかかる作業なので、毎日夜中の2時や3時までかかりました。年間で350本ほど動画を作りましたが、動画作りに追われて、自分が英語教師なのかどうかわからなくなってしまったような1年間でした。

司会（編集K） コロナ禍になって困ったことや英語の授業で変わったことをそれぞれお話いただいたわけですが、今はどうなのでしょう。授業形態としては通常の対面の形式に戻っていると思いますが、全員対面の授業に戻っています。

元大K みなさんに質問したいのですが、現在は普通の授業に戻っているということですけど、これからまたコロナが流行ってくることもあると思いますが、そのときはどうするのか。そんな心配はしていないのか、授業への影響はないのかどうかうかがえますか。

現中H 私の勤務する中学校では、クラスで2人がコロナウイルスに感染すると学級閉鎖することになっています。しばらく前は3クラスが学級閉鎖になっていましたが、今は学級閉鎖はありません。ただ濃厚接触者はかなりいて、生徒は発熱したら欠席ではなく出席停止になっています。学校にいる生徒の数が少ないですね。

現高F 私が勤務する中学・高校では、コロナ禍の中で教師も生徒も対応の仕方を学んできたので、これからコロナの第〇波というような事態になったときは、いつでもオンラインの授業に切り替えるなどの用意はしています。ただ今は生徒の中に陽性者や濃厚接触者がかなりいると思いますが、対面の授業を続けています。

現高S 私が勤務する中学・高校では、コロナで一斉休校にするとかオンラインの授業にするとといったことは今のところは考えていないと思います。インフルエンザなどと同じような扱いということです。様々な事情で登校ができない生徒には、Zoom配信も検討することはあると思いますが、コロナに対する考え方が変わってきたという感じですか。今の社会全体がそうなっているとと思います。

大学K 大学の場合は、全学的にコロナ感染状況のレベルによって対応を決めています。例えばレベル2ならば原則的に対面の授業はやめてオンラインの授業を基本にするといった対応です。ただ今のところ対面の授業で、学生がコロナに感染したときは出講停止という扱いです。本学の場合は、コロナになったかどうかは自己申告制なので、本当かどうか疑う余地はありますが、学校に来られない学生にどう対応するかが悩ましいところで、教員が個別に授業の資料を送ることになっているのですが、通常の授業のための資料を作り、さらに欠席者用の資料を別に作るとなると負担が大きく、きめ細やかな対応について苦慮しているというのが現状です。